

令和3年度「いじめ調査（年間）」のまとめ

1 過去5年間の認知率の推移について・・・実人数による割合

認知率	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	小学合計	中学1年	中学2年	中学3年	中学合計
平成29年度	58.3%	37.5%	36.4%	31.5%	18.8%	11.9%	31.4%	8.2%	4.0%	1.1%	4.2%
平成30年度	46.7%	51.6%	41.2%	34.9%	23.4%	16.1%	34.7%	8.6%	7.8%	1.5%	5.8%
令和元年度	46.2%	33.0%	45.8%	33.8%	23.6%	13.1%	31.7%	10.8%	5.0%	4.8%	6.7%
令和2年度	47.0%	28.0%	21.8%	31.9%	15.6%	10.8%	25.2%	6.2%	5.4%	1.7%	4.4%
令和3年度	33.8%	40.1%	36.0%	18.1%	25.7%	12.6%	27.6%	6.1%	5.5%	1.8%	4.5%

ア 京丹後市内すべての小中学校において、いじめを認知している。

イ 1000人あたりの認知件数は、京都府において小学校143件・中学校27件（令和3年度）に対し、京丹後市は、小学校276.2件・中学校44.6件（令和3年度）であった。

ウ 年間（合計）の認知率を令和2年度と比較すると、小学校は若干増加、中学校は大きな変化なし。

エ 年齢を重ねるごとに認知率が減少していく傾向は顕著にみられる。

2 態様について

小学校		中学校	
京丹後市（年間）	京都府（R3・2回目）	京丹後市（年間）	京都府（R3・2回目）
冷やかしたりからかい等 (39.8%)	冷やかしたりからかい等 (39.7%)	冷やかしたりからかい等 (56.9%)	冷やかしたりからかい等 (52.6%)
軽くぶたれたり蹴られたり、 遊ぶふりをして叩かれる (18.9%)	軽くぶたれたり蹴られたり、 遊ぶふりをして叩かれる (18.9%)	軽くぶたれたり蹴られたり、 遊ぶふりをして叩かれる (11.5%)	軽くぶたれたり蹴られたり、 遊ぶふりをして叩かれる (14.1%)
嫌なことや恥ずかしいこと、 危険なことをされたり、させ られたりする。 (14.1%)	仲間はずれ・集団による無視 (12.2%)	嫌なことや恥ずかしいこと、 危険なことをされたり、させ られたりする。 (7.7%)	仲間はずれ・集団による無視 (8.9%)
仲間はずれ・集団による無視 (10.4%)	ひどくぶたれたり、叩かれたり、 けられたりする (8.9%)	ひどくぶたれたり、叩かれたり、 けられたりする (7.7%)	嫌なことや恥ずかしいこと、 危険なことをされたり、させ られたりする。 (5.3%)
【SNS】 パソコンや携帯電話等での誹 謗中傷や嫌なことをされる (0.7%)	【SNS】 パソコンや携帯電話等での誹 謗中傷や嫌なことをされる (1.8%)	【SNS】 パソコンや携帯電話等での誹 謗中傷や嫌なことをされる (3.8%)	【SNS】 パソコンや携帯電話等での誹 謗中傷や嫌なことをされる (4.6%)

ア 態様は、ほぼ京都府と同じ傾向にある。

イ 「SNS」を介した態様は、小学校はオンラインゲーム内でのトラブル、中学校はLINE等・モバイルメッセージアプリでのトラブルが多い。また、子どものスマホ・タブレットの所持率は上がっているが、ここ数年全体の態様の中で占める割合は増えていない。

3 「重大事態」について

年間を通して、「重大事態」の認知及び発生はない。

4 今後の課題について

- (1) いじめは、「すべての児童生徒に起こりうる、全ての児童生徒が加害者にも被害者にもなりうる」ということを踏まえ、安心・安全で心理的安全性の高い学校・学級づくりを推進する。
- (2) いじめ調査に書けない児童生徒がいることを踏まえ、教育相談週間の実施など、調査以外の方法や教職員の日常的な見守り、児童生徒が相談しやすい信頼関係の構築に努める。
- (3) 「学校いじめ防止組織」等の会議の確実に実施し、教職員の情報共有や学校経営の見直し、授業改善等、未然防止・早期解決の取組みを推進する。

令和3年度「不登校の状況」のまとめ

* 「不登校」・・・「不登校」を理由として30日以上欠席

1 小学校の状況について

ア 不登校 23名

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
人数	2人	2人	3人	2人	5人	9人

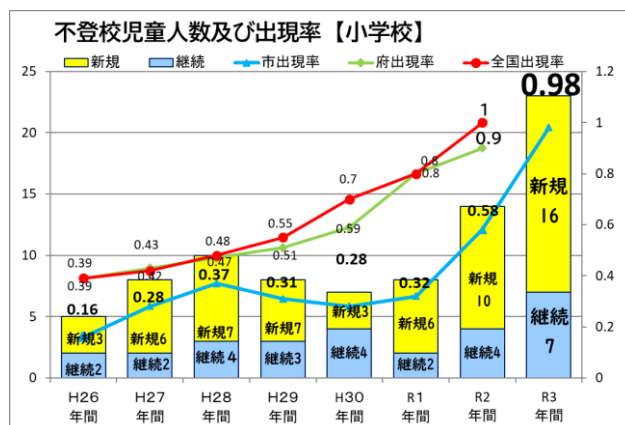
イ 新規不登校 16名の内訳

経過観察：2名

新規報告：14名

ウ 別室登校：全報告中 15名

別室登校 100日以上：5名



2 中学校の状況について

ア 不登校 46名

	1年	2年	3年
人数	14人	15人	17人

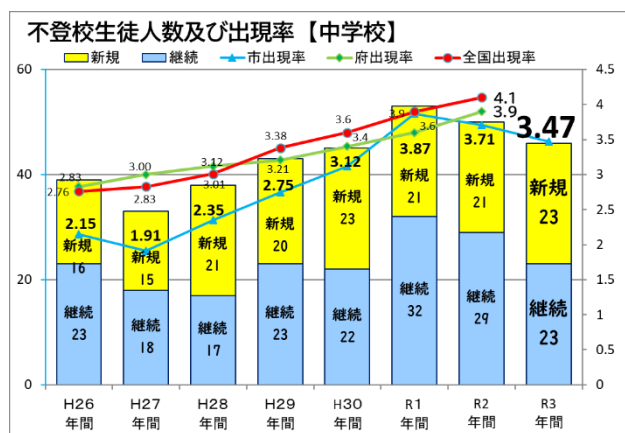
イ 新規不登校 23名の内訳

経過観察生徒：6名

新規報告生徒：17名

ウ 別室登校：全報告中 39名（全6中学校）

別室登校 100日以上：3名



3 教育支援センター「麦わら」について

(1) 申請 4月 6名（小学生1名・中学生5名）

3月 17名（小学生4名・中学生13名）

(2) 学年・男女別人数(令和4年3月末現在)

	小5	小6	中1	中2	中3
人数	3人	1人	3人	5人	5人

(3) 不登校ではないが、心の安定を図る未然防止としての通所、保護者のみの相談等活用が多様化している。

(4) アウトリーチ型支援の増加

訪問支援 3件・中学校教育相談部会への定期的な参加

4 今後の課題について

(1) 不登校に至る要因や背景は年々多様化しているとともに、前学年までの累積欠席日数によらず新規不登校に至る可能性がある。児童生徒の変化に気付く力、早期に対応し、専門家や関係機関と連携を図ることができる支援体制の構築が必要。

(2) 学校は、児童生徒の社会的自立にかかわる教育活動を位置づけ、魅力ある学校・学級づくり、居場所づくり、人権教育の充実等未然防止の取組を推進する。

(3) 不登校改善例等、不登校対応に関する情報を発信・共有する。